

競技・審判上の確認事項

競技委員長 瀬古 篤志

審判委員長 佐藤 真理

- (1) 本大会は、平成 27 年度 公益財団法人 日本バレーボール協会 6 人制・9 人制競技規則、及び競技要綱により実施します。
- (2) 競技日程は、プログラム記載のとおりですが、9 人制女子は 5 月 17 日の 1 日開催とします。
- (3) 競技は予選グループ戦も含めすべて 3 セットマッチとします。また、**6 人制男女のすべての試合を 3 セット目 15 点制、14 - 14 の場合は 2 点差がつくまで無制限で実施**します。
- (4) 各試合の記録、線審、点示は指定されたチームが担当してください。
- (5) 試合開始時刻に 15 分以上遅れた場合は棄権とみなします。追い込み方式をとるので、各チームは前試合の進行状況に十分注意してください。
- (6) 申し込み時に登録された 18 名以内の選手についての変更（登録選手の追加、番号の変更、誤りの訂正も含む）は一切認められません。監督、コーチ、マネージャーについては代表者会議において変更の届け出を受け付けます。登録された 18 名の中から試合毎に、6 人制は 14 名以内（13 名以上の場合リベロは 2 名）、9 人制は 12 名以内の選手をエントリーしてください。
昨年度から引き続き各試合の最終エントリー方法は以下の運用とします。
 - ① ベンチ入り最終メンバーの手続きは試合を行うコートの記録席で行います。
 - ② 記録用紙にあらかじめ両チームの大会エントリーメンバー全員を記入しておきますので、チーム代表者はその中からベンチ入りしないメンバーを取り消し線で削除し、リベロの選手を記入してください。
- (7) チーム構成は、監督、コーチ、マネージャー各 1 名、選手は 6 人制 14 名以内、9 人制 12 名以内とします。これ以外の者のベンチへの着席や公式練習への参加を禁止します。
- (8) 公式練習は 6 分間とします。ただし、どちらかが相手チームとは別に要求した場合は、各 3 分行うことができます。
- (9) プロトコールでのトスは、第 1 試合では競技開始時刻の 11 分前、それ以降は前試合終了後、5 分後に各コートの記録席前にて行います。その後ライン・アップ・シートを速やかに当該審判員に提出してください。
- (10) 監督、コーチ、マネージャーは、試合中、それぞれの役員マークを左胸部につけてください。つけていない場合にはベンチ入りを禁止します。
- (11) コートが濡れた場合のワイピングは、コート内の選手がタオルで速やかに行ってください。タイムアウト及びセット間には、ベンチの競技参加者がモップで拭いてください。
- (12) 隣接するコートで試合中の場合は、空きコートでネットを使つての練習を禁止します。
- (13) 試合が連続する場合は、15 分を限度として休息を設けます。
- (14) ユニフォームにつけられるナンバーは原則として 6 人制では 1 番から 20 番とします。やむを得ない場合は 21 番から 99 番を使用することを認めます。6 人制では、胸部のナンバーの高さは最小限 15 cm となっていますが、この大会に限り従来のもも着用を認めます。
- (15) アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首などからはみ出てはいけません。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものでない限り制限されません。

- (16) 試合中は、ゲームキャプテンのみが審判員に競技規則の適用や解釈について質問をすることができます。
- (17) 監督は試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に着席してください。一時的にベンチを離れてもよいですが、ラリー中はベンチに着席してください。
- (18) リベロについて（6人制）
- ① チームは、リベロを2名エントリーすることができます。リベロは、チームキャプテンおよびゲームキャプテンになることはできません。
 - ② リベロを採用するチームは、各試合のメンバー表のリベロ欄にプレイヤーの番号と名前を記入し提出してください。それ以後の申し出については認めませんので注意してください。また、第1セットのライン・アップ・シートにもリベロのナンバーを記入してください。
 - ③ ひとつのラリー間で一組のみ通常プレイヤーとリベロ、またはリベロとリベロの交代が可能です。
 - ④ リベロは、他の競技者と対照的で異なる色のユニフォームを着用してください。この大会に限り、『L』の文字のついたベストの着用も認めます。（リベロが2名の場合は異なる色のベストを着用してください。ベストは各チームで用意してください）。
- (19) 不当な要求は、競技に影響を及ぼさず試合の遅延とならなければ制裁されることなく拒否され、同一試合内で繰り返された場合には遅延として罰せられます。
- (20) 試合中の遅延の制裁は、試合を通して有効です。
- (21) チームメンバーによる軽度の不法な行為は、2段階で処置されます。
- ステージ1：ゲームキャプテンを通じて口頭での警告
- ステージ2：該当する選手にイエローカードを使用して警告
- 繰り返された場合、その競技者は反則（レッドカード）の制裁を受け、相手チームにサービス権と1点が与えられます。
- (22) 選手の健康管理については、チーム及び個人の責任としてこれを受け止め、十分留意してください。
- (23) 各会場の使用上の注意事項を遵守してください。なお、競技中のガムは禁止します。

（補足）

今年度、タッチネットのルールが大きく変更となりました。ボールをプレーする選手が両アンテナ間のネットへ接触した場合、タッチネットの反則となります。ボールをプレーするとは、動作の仕掛かりから着地までと定義されています。

例えば

■ アタック後にネットをひっかく	■ ブロック前後のネット接触	■ (主にセッターの)トスアップ時のネット接触
■ おとりのアタッカーのネット接触	■ おとりアタッカーについたブロッカーのネット接触	■ ネット近くでのレシーブ時のネット接触

などが反則となります。

なお、アンテナ外側の網目への接触は反則ではありません。各チームでご確認をお願いいたします。